



注目ポイント

- ✓先週は、高市氏の自民党総裁就任を受け、金融市場ではいわゆる「高市トレード」が活発となり、ドル円は一時153円台に突入し、10年国債利回りは一時約17年ぶりに1.70%に到達。そして日経平均は最高値を更新し、48,000円台に乗せる等、円安&株高&金利高が進展した。ただし、週末には、公明党の政権離脱により政局不透明感が、またNY時間ではトランプ米大統領が対中国に追加関税を課すと発言し、米中貿易摩擦の懸念も台頭。
- ✓今週は、政局の不透明感から「高市トレード」の巻き戻しが予想される。特に、株式市場は米中貿易摩擦懸念も加わり、大幅な下落が予想される。政局の動向、トランプ米大統領の言動に注意を払いながら、下値を模索する展開となろう。
- (門倉英司)

2025年10月6日 ~ 2025年10月13日

市場・指標			10月6日 ~ 10月13日		10月13日	前週末比		トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	騰落幅	騰落率	
株式	日本	日経平均 (円)	48,597	46,593	48,089	+2,319	+5.1%	
	米国	NYダウ (ドル)	46,868	45,471	46,068	-691	-1.5%	
	ドイツ	DAX (ポイント)	24,771	24,241	24,388	+9	+0.0%	

市場・指標			10月6日 ~ 10月13日		10月13日	前週末比	トレンド (直近2か月)
			最高	最低	終値	変化幅(%)	
金利 (国債)	日本	10年 (%)	1.700	1.655	1.690	+0.030	
	米国	10年 (%)	4.18	4.03	4.03	-0.09	
	ドイツ	10年 (%)	2.74	2.62	2.64	-0.06	

市場・指標			10月6日 ~ 10月13日		10月13日	前週末比	トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	変化幅(円)	
為替	米ドル (円)		153.27	149.05	152.32	+4.85	
	ユーロ (円)		177.94	173.92	176.22	+3.03	
	豪ドル (円)		100.95	97.58	99.24	+1.89	

市場・指標			10月6日 ~ 10月13日		10月13日	前週末比		トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	騰落幅	騰落率	
その他	日本	東証リート (ポイント)	1,945	1,915	1,920	+11	+0.6%	
	米国	NY原油 (ドル)	62.92	58.22	59.62	-1.3	-2.1%	
		NY金 (ドル)	4,137	3,909	4,129	+220	+5.6%	

(注) Bloombergのデータを使用して浜銀総研作成。 休日・休場の場合は、その前営業日の値を使用して作成してあります。

②マーケット動向(振り返り&予想)

2025年10月14日 ~ 2025年10月17日

株式

下値を模索する展開か

日経平均
【予想レンジ】 46,000 円 ~ 48,000 円

- 先週の日経平均は大幅上昇。高市氏の自民党総裁就任による積極財政への期待や円安進行を背景に、日経平均は連日のように最高値を更新し、9日には初の4万8,000円台に乗せた。半導体関連株や輸出関連株が買われた一方、内需株には円安によるコスト悪化懸念で売りも散見された。また週末10日は過熱感や政局不透明感から反落した。
- 今週の日経平均は下値を模索する展開か。国内では、公明党の連立離脱により高市氏の首相就任に不透明感が台頭。また、トランプ米大統領による対中追加関税のニュースで、米中貿易摩擦の懸念が再燃。今月に入ってからの上昇が急ピッチであったこともあり、利益確定売りが優勢となり、下値を模索する展開となろう。

金利
(国債)

弱含み(低下)もみ合いか

10年国債利回り
【予想レンジ】 1.620 % ~ 1.700 %

- 先週の国内金利は上昇。高市氏の自民党総裁就任による、財政拡張懸念や、急速な円安進行が輸入物価上昇によるインフレ加速を連想させ、長期金利に対して上昇圧力となった。10年国債利回りは、約17年ぶりに、一時1.70%に到達。ただし持ち高調整の債券買いも散見されており、金利上昇の勢いは限定的であった。
- 今週の国内金利は、弱含みもみ合いか。公明党の政権離脱により、高市総理の誕生に不透明感が台頭。いわゆる高市トレードの巻き戻しが予想され、長期金利には低下圧力がかかる状況に。またトランプ米大統領による対中追加関税を受け、株式市場が軟調となると予想されることも金利低下の追い風に。ただし日銀の追加利上げ観測も燃っているため、低下余地は限定的か。

為替
(米ドル)

方向感なくもみ合いか

米ドル/円
【予想レンジ】 150.00 円 ~ 154.00 円

- 先週のドル円は、大幅に円安ドル高が進展。自民党総裁に高市氏が選出されたことを受け、財政拡張への懸念と日銀による利上げ観測後退が円売りを加速させ、一時約8か月ぶりに1ドル=153円台まで円安に。ただし、週末国内では公明党の連立離脱のニュースが、またNY時間にはトランプ米大統領による対中追加関税のニュースが、リスク回避の円買い材料となり一時151円台まで押し戻される場面も。
- 今週のドル円は、方向感なくもみ合いか。ドル円は、自民党と他党との連立をめぐる動向や、そもそも高市総理が誕生するか？に注目しながら神経質な展開となろう。「高市トレード」の巻き戻しで更に円高が進む可能性もあるが、政局不安から円安を予想する参加者も少なくなく、円高の進行余地も限定的か。



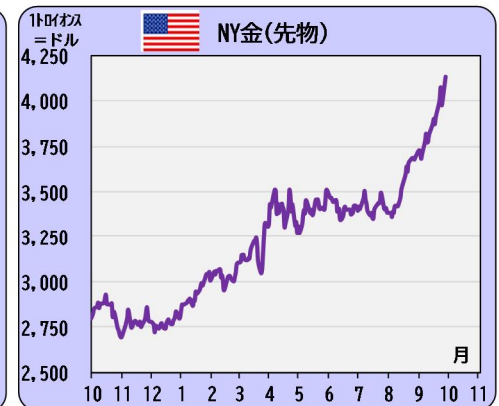
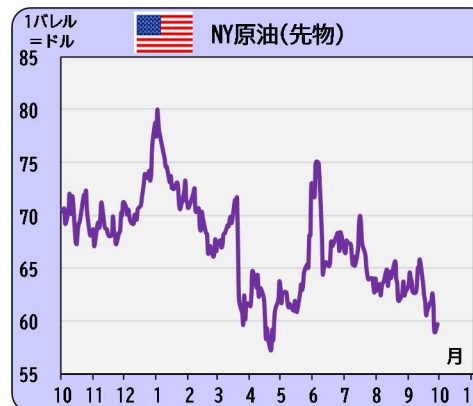
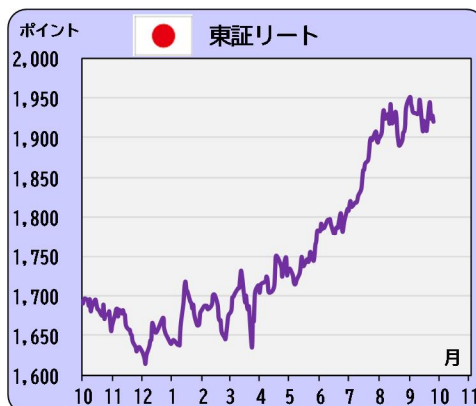
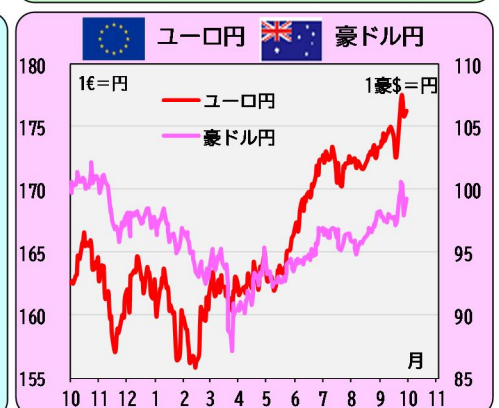
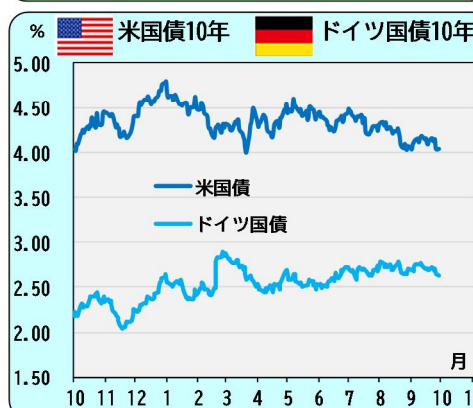
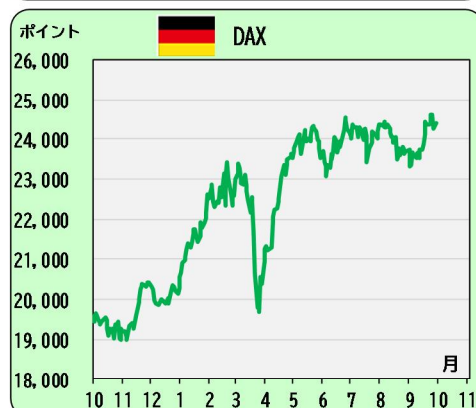
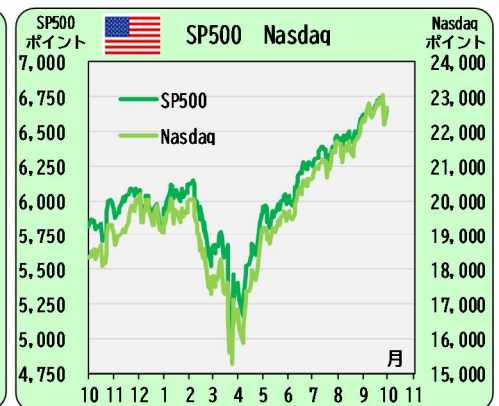
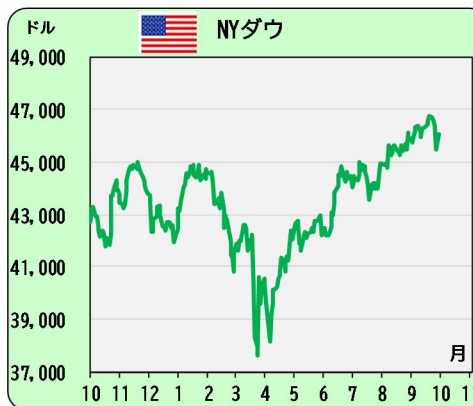
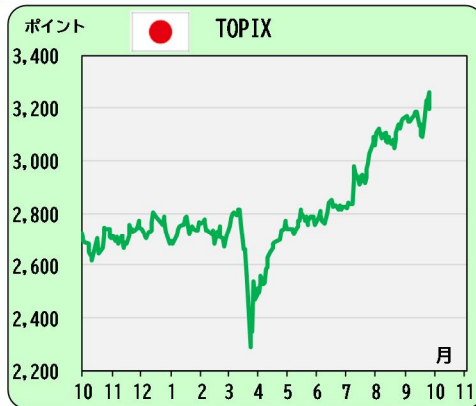
○今週の注目指標 ※内容および日程が変更される場合があります。

月 日	国 内	海 外
10/13(月)		
10/14(火)		
10/15(水)	国債入札(20年)	米国: CPI(9月) 米国: 地区連銀経済報告(ベージュブック)
10/16(木)	機械受注統計(8月) 第3次産業活動指数(8月)	米国: PPI(9月) 米国: 小売売上高(9月)
10/17(金)		米国: 住宅着工件数(9月) 米国: 鉱工業生産指数・設備稼働率(9月)



③その他チャート集

直近1年間



※頻出英字略称用語一覧

略称	正式名称	略称	正式名称	略称	正式名称
AI	人工知能	FRB	米連邦準備理事会	PCE	個人消費支出
CTA	商品投資顧問	FTA	自由貿易協定	PER	株価収益率
CTFC	米商品先物取引委員会	GDP	国内総生産	PMI	購買担当者景気指数
CPI	消費者物価指数	IMF	国際通貨基金	PPI	卸売物価指数(生産者物価指数)
ECB	欧州中央銀行	IEA	国際エネルギー機関	SQ	特別清算指数
ETF	上場投資信託	ISM	米供給管理協会	TPP	環太平洋経済連携協定
EU	欧州連合	OECD	経済協力開発機構	WSTS	世界半導体市場統計
FDI	海外直接投資	OPEC	石油輸出国機構	WTI	ウエストテキサスインターミディエート(原油)
FF	フェデラルファンド	OPEC+	OPEC加盟国と非加盟国の枠組み		
FOMC	米公開市場委員会	PBR	株価純資産倍率		

●ご留意事項

- ・本レポートの目的は情報提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載した内容は、発行日午前9時までの情報にもとづく浜銀総合研究所・調査部の見解であり、レポート発行後に予告なく変更することがあります。また、本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源にもとづいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。最終的な投資判断はお客さまご自身でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートに関するお問い合わせは浜銀総合研究所・調査部までお願いいたします。